

## がん登録件数

以下のグラフは、2013年1月から12月までに、入院・外来を問わず当センターで「がん」と診断または治療、経過観察されたがん登録件数の内訳です。

次の腫瘍を、原発部位\*をもとに1腫瘍につき1登録します。

- ① 固形悪性腫瘍（胃がん、乳がんなど）
- ② 造血系悪性腫瘍（白血病、悪性リンパ腫など）
- ③ 上皮内悪性腫瘍（臓器表面を覆う上皮にとどまるがんで、転移がないもの。子宮頸部上皮内がんなど）
- ④ 脳腫瘍\*\*（悪性・良性・性状不詳\*\*\*含む）

\*原発部位での登録となるため、転移性腫瘍の治療を行った場合でも原発部位に含まれます。

例）大腸がん肝転移→大腸がんで登録

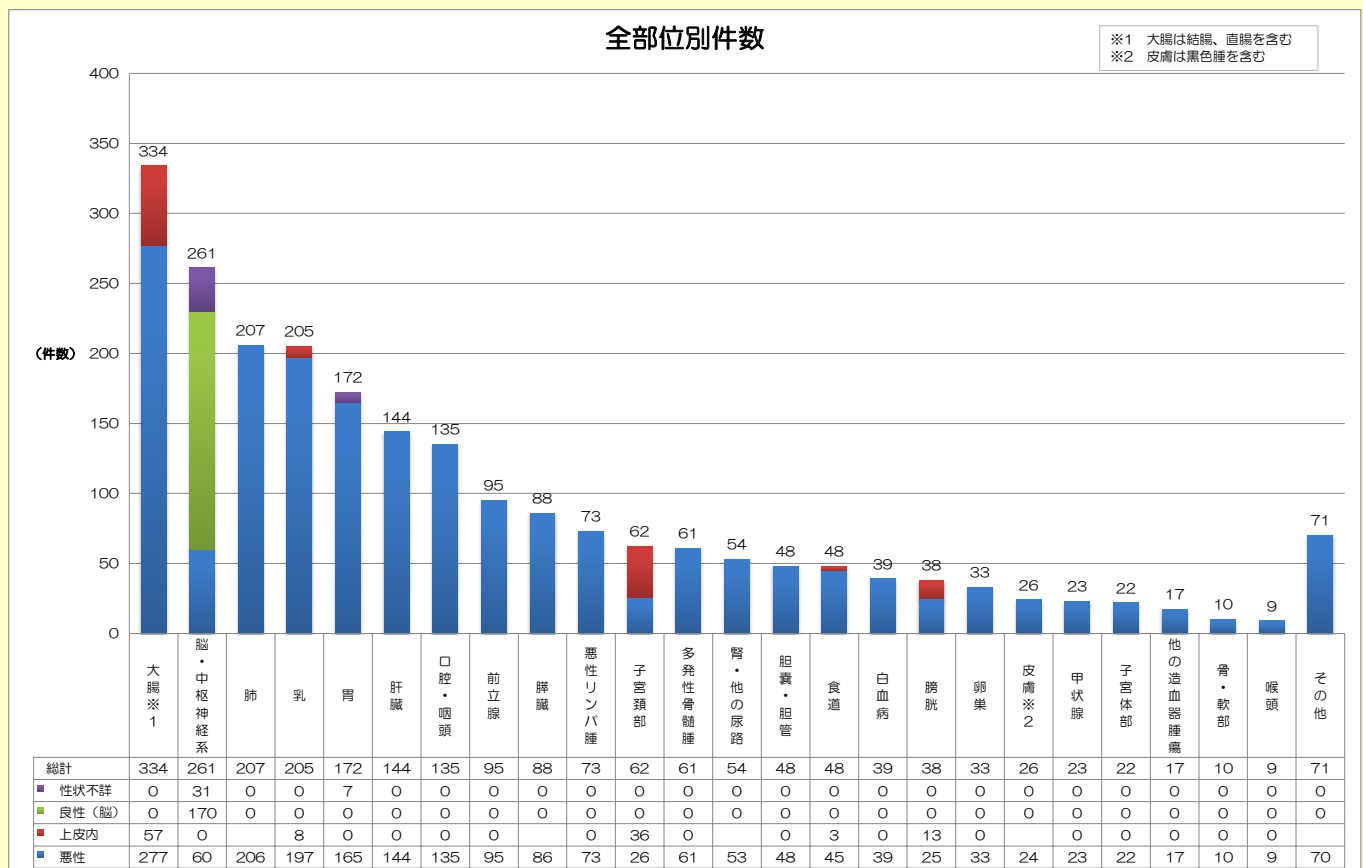
乳がん脳転移→乳がんで登録

\*\*脳腫瘍は良性、性状不詳であっても全身に影響を及ぼすことがあるため、登録対象となります。

\*\*\*性状不詳とは、国際疾病分類腫瘍学第3版に定められた「良性又は悪性の別不詳、境界悪性、低悪性度、悪性の存在性不詳」を指します。

## 部位別

当センターのがん登録件数を部位別に示したものです。



（集計値が2以下の場合、個人が特定される可能性が高いことから、表記していません。）

当センターでは日本人に多い5大がん（胃・大腸・肝臓・肺・乳）の登録割合が全体の46%を占めています。

そのうち、大腸がん（直腸・結腸を含む）の登録件数が一番多く、上皮内がん（いわゆる早期がん）の割合が17%です。

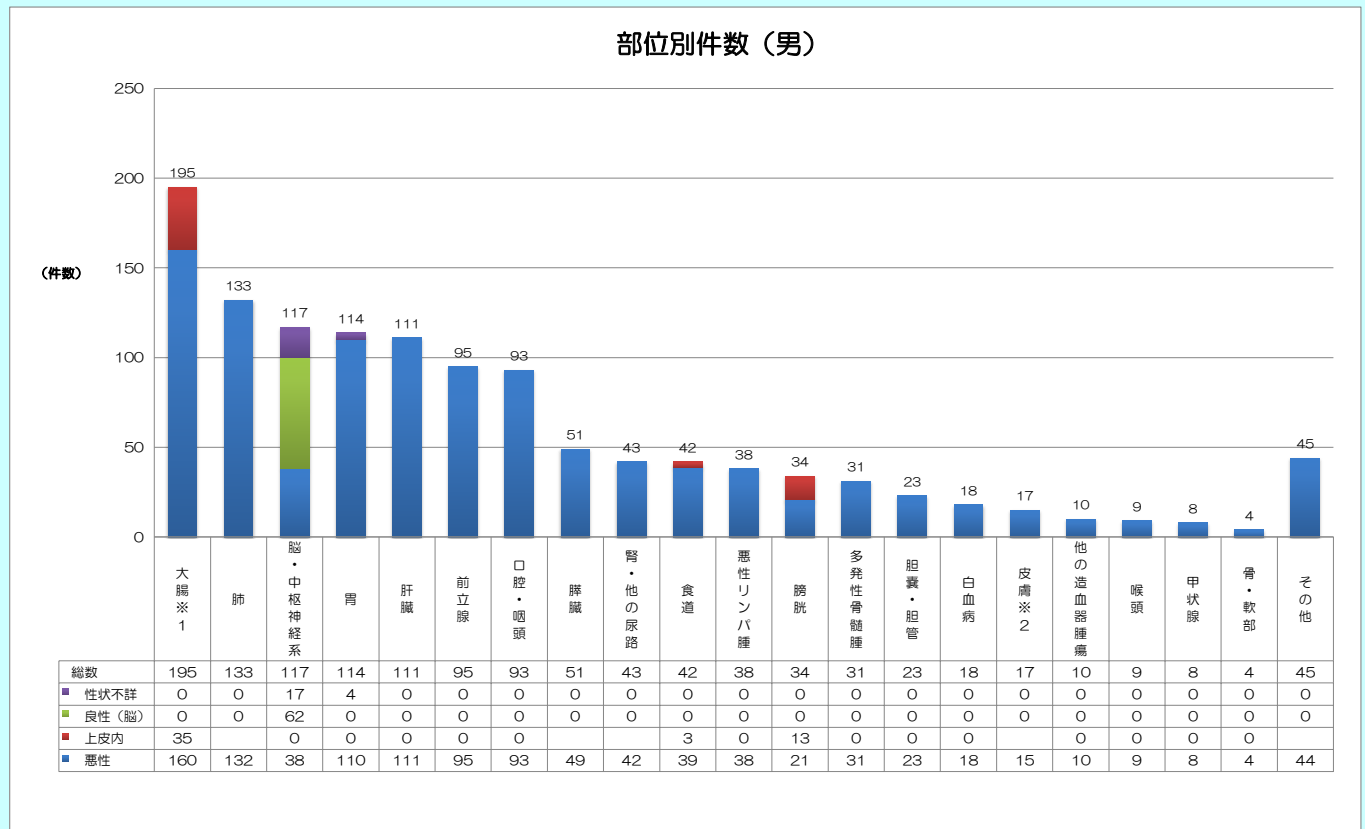
また他の4大がんをおさえ、脳・中枢神経系腫瘍の登録件数が二番目に多く、内訳は良性（良性髄膜腫、下垂体腺腫など）が65%、

悪性（悪性髄膜腫、膠芽腫など）が23%、性状不詳（異型髄膜腫、頭蓋咽頭腫など）が12%です。

その他には原発不明がん、副鼻腔がん、鼻腔及び中耳のがん、小腸がんなどが含まれます。

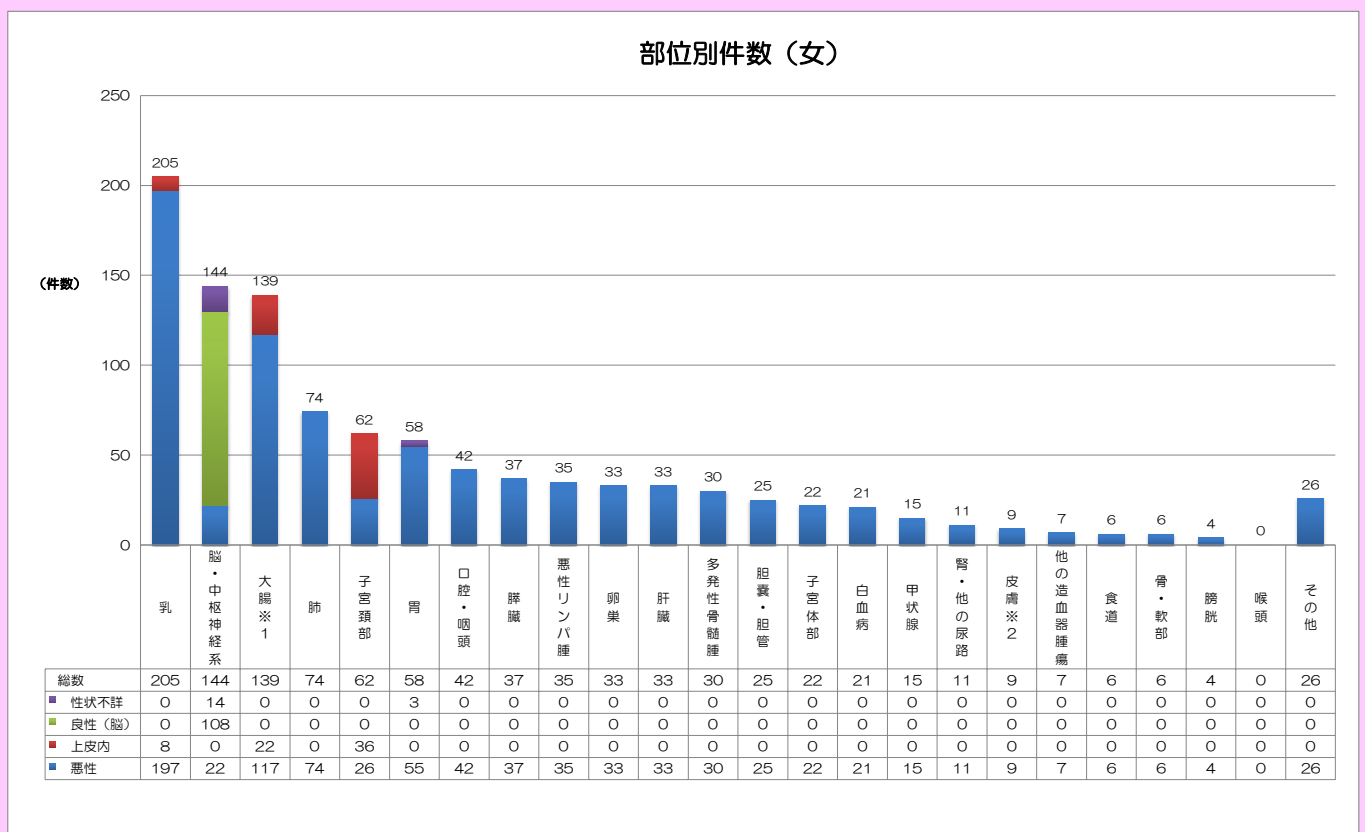
## 部位別・男女別

部位別のがん登録件数を、男女別に示したものです。



（集計値が2以下の場合、個人が特定される可能性が高いことから、表記していません。）

男性は、5大がんのうち乳がんを除く大腸がん・肺がん・胃がん・肝臓がんが上位を占めています。



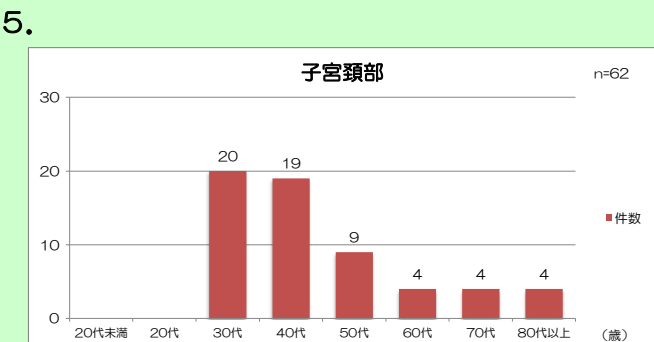
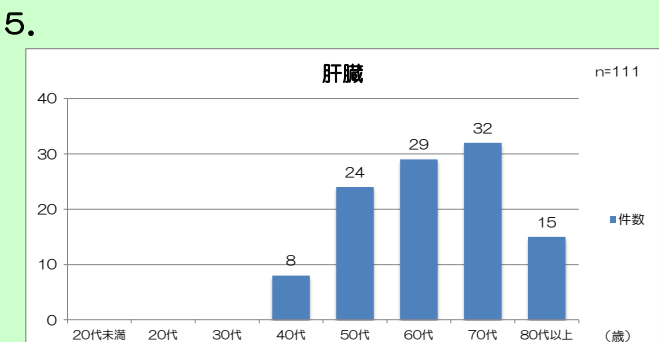
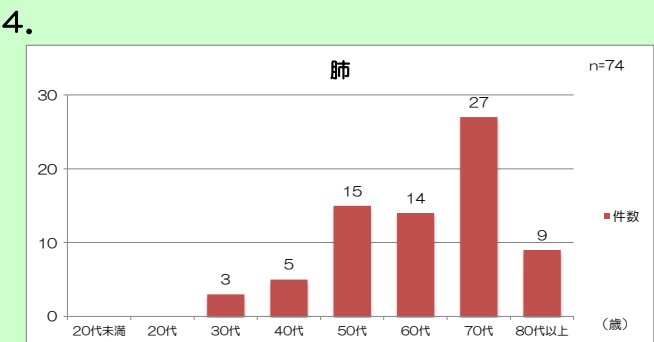
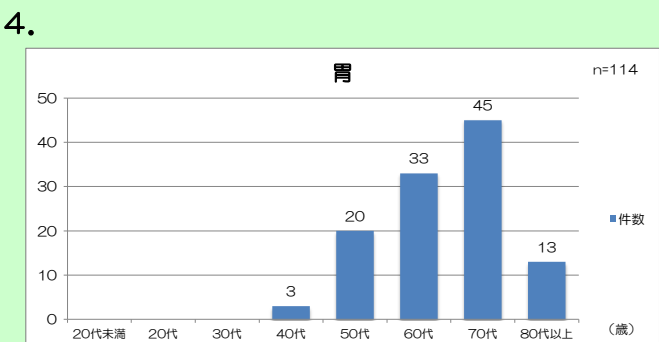
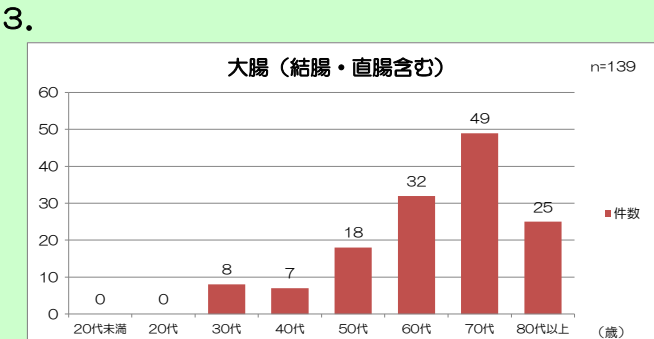
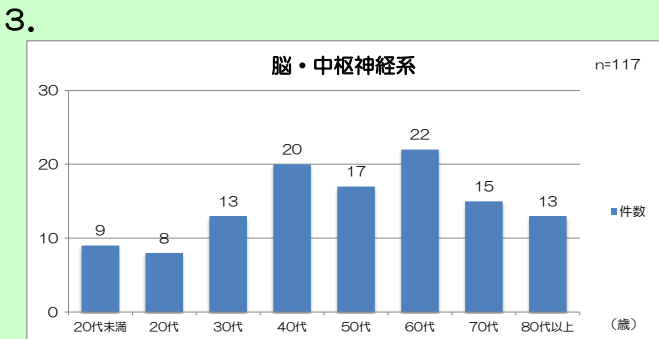
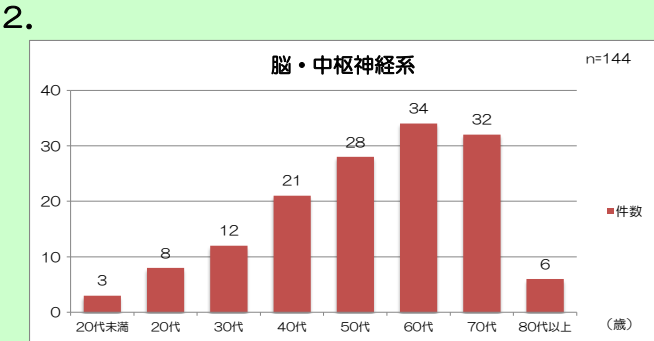
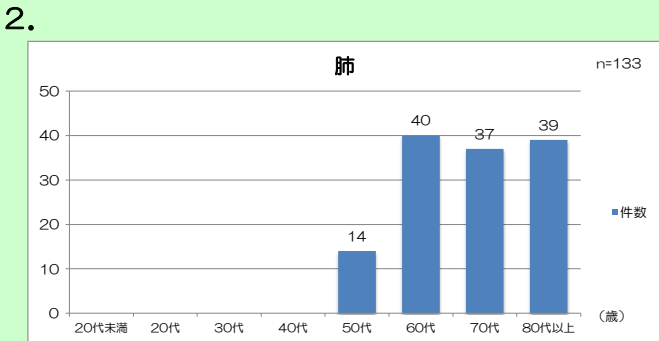
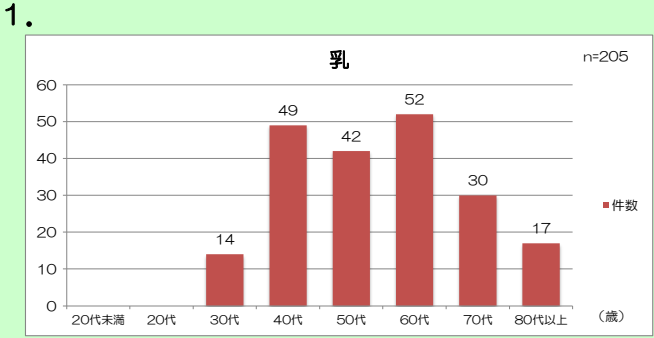
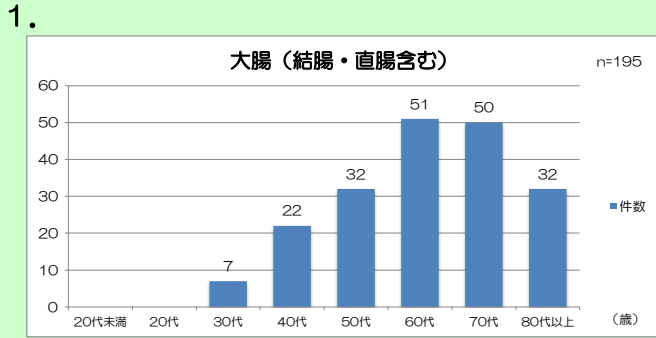
女性は乳がん・子宮頸がんなど女性特有のがんが上位に入っています。

# 上位5部位別・男女別・年齢別

男女別登録件数の上位5部位について、年齢別に示したものです。

(男)

(女)



(集計値が2以下の場合、個人が特定される可能性が高いことから、グラフに表記していません。)

男性は脳・中枢神経系を除き、60代前後の罹患が多い傾向です。

女性は乳がんの罹患数が40代から増加しています。子宮頸がんは30代、40代に多く、50代以降は減少しています。

## 住所地別来院割合

当センターへの住所地別の来院割合を、治療開始前\*と治療開始後（治療開始後の継続治療目的）\*\*に分けて示したものです。

\* 治療開始前…他施設や当センターで初めてがんと診断され、当センターで治療や経過観察を行うこと。

\*\*治療開始後…他施設でがんの治療を行った後に、当センターで新たな治療（追加治療）やこれまでの継続治療、経過観察を行うこと。

（治療開始前の例）

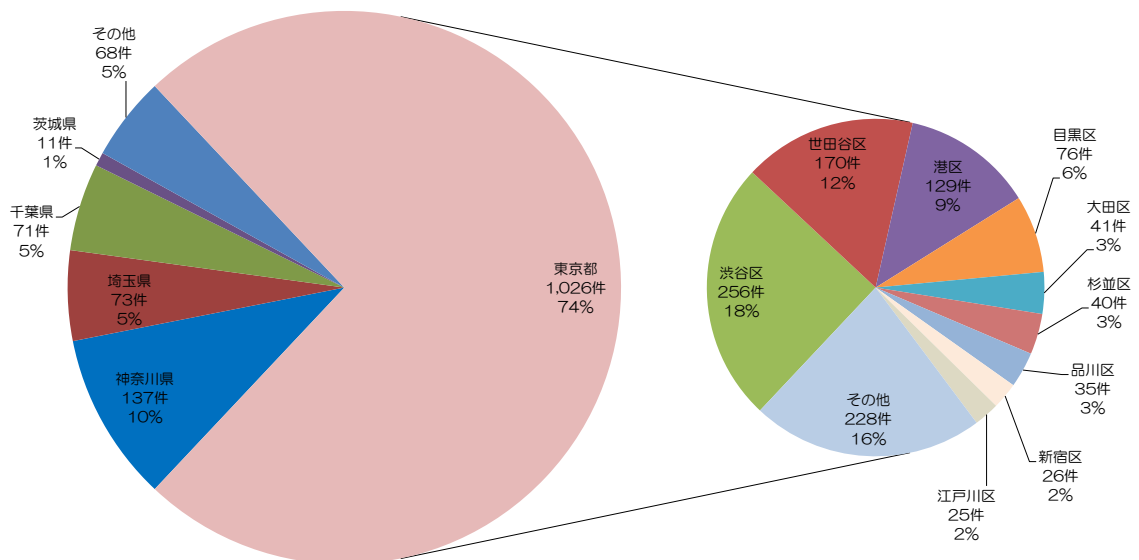
- ・他施設にて「乳がん」と診断され、当センターを紹介受診。当センターにて乳がんの手術と放射線療法を行った。
- ・当センターにて「肺がん」と診断、化学療法を行った。

（治療開始後の例）

- ・他施設にて「胃がん」と診断され、手術を行った。胃がんの術後化学療法を当センターにて行った。
- ・他施設にて「大腸がん」と診断され手術を行ったが、その後「大腸がん肝転移」と診断。肝転移に対する治療目的で当センターを受診し、肝切除手術を行った。

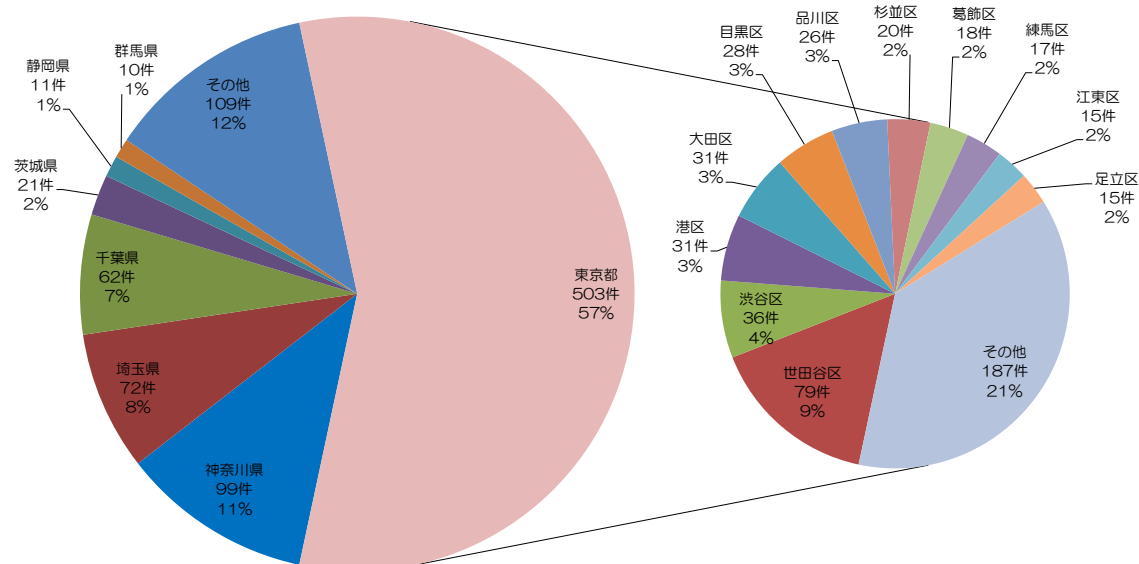
### 治療開始前・住所地別来院割合グラフ

n=1,386



### 治療開始後・住所地別来院割合グラフ

n=887



治療開始前の住所地別来院割合は、東京都が7割を占めます。治療開始後では、治療開始前に比べ全国から当センターに来院される患者さんが増えます。治療開始後のその他の内訳は、北海道9件、栃木県8件、長野県8件、京都府7件、兵庫県7件などとなっています。